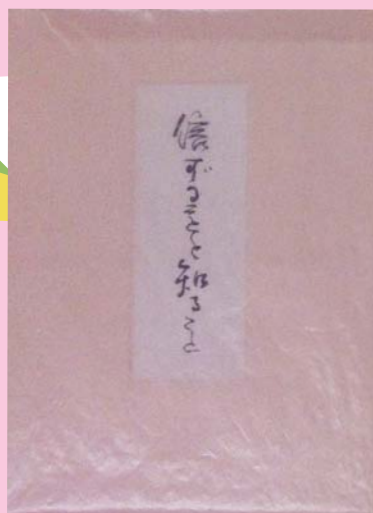


第

52

回

Rare Books



明治大学中央図書館企画展示

新 収 貴 重 書 展

会場：明治大学中央図書館1F ギャラリー

会期：2014年3月26日（水）～5月7日（水）

休館：3月31日（月）

「新収貴重書展」の開催にあたって

明治大学図書館では、「明治大学図書館収書基本方針」に基づいて、教育・研究に必要な資料を購入しています。その中には貴重書や大型コレクションなどの特別な資料も含まれ、長年収集され、既に特色あるコレクションを形成している分野には予算を重点的に配分し、さらなるコレクションの充実・発展に努めています。たとえば、古地図の一大コレクションである「蘆田文庫」、近代日本文学の初版本を集めた「日本近代文学文庫」、近世文学の洒落本、読本、草双紙類を集めた「江戸文藝文庫」などをあげることができます。これらの資料は「新収貴重書展」として、中央図書館ギャラリーで定期的に公開しています。

今回は 2012 年度に収蔵した資料を中心として展示します。スペースの関係で全ての資料を展示することはできませんが、注目される資料としては、ギョーム・ビュデ『偶発的事物の蔑視について』（1528 年）、ウィリアム・モリス『世界の果ての泉』ケルムスコット版（1896 年）などがあります。

また、「江戸文藝文庫」から『世諺口紺屋雛形』、『桃花流水』、『赤ぼしさうし』を、近代文学の初版本として大佛次郎『ふらんす人形』、江戸川乱歩『心理試験』『蜘蛛男』、三島由紀夫『黒蜥蜴：戯曲』など、現在でも読み継がれる傑作の数々を展示しています。

中央にある展示ケースには「蘆田文庫」から『北東タターリア誌』（1785 年）、『東北韃靼諸国図誌野作(エゾ)雑記訳説』（1809 年）、『蝦夷海陸路程全圖』（1855 年）の蝦夷地（北海道）に関する地図を展示しました。

紙の本が持つ、質の高い文化の薫りの一端をお楽しみいただければ幸いです。

明治大学図書館

よのたとえくちからこうやのひながた

1 世 諺 口 紺 屋 雛 形

3 巻合 1 冊 曲亭馬琴(1767~1848)作・子興(栄松斎長喜<生没未詳>)画 蔦屋重三郎板 寛政 11 年刊(1799) 913. 57/TA1-66//H

曲亭馬琴の黄表紙で、昭和初年刊行の日本名著全集『黄表紙廿五種』にも収められ、比較的知られた作である。馬琴も当時の戯作者の常として黄表紙を数多くものしてはいるが、馬琴の黄表紙は地口(駄洒落)を主軸として発想されており、重苦しい無粋なものである。読んで面白いものでもないが、馬琴の雌伏時代の作として軽視すべきではない。馬琴の本領は読本と合巻にあって、江戸文藝文庫もそれらの収集は充実しているが、習作時代の黄表紙は数少ない。本作はその欠をいささかなりとも補ってくれる資料である。

長喜は、鳥山石燕の門人で歌麿と同門である。宝暦から寛政年間に渡っている。錦絵や肉筆浮世絵に優品があるほか、黄表紙・狂歌本・洒落本などの挿絵も数多く手がけている。

とうかりゆうすい

2 桃 花 流 水

5 巻中 3 巻存 一筆庵可候(溪斎英泉)作・溪斎英泉(1790~1848)画 鶴屋喜右衛門板 文政 4 年刊(1821)

913. 57/IK1-1//H

本作題簽は「七小町盛衰記」となっているが、登録書名は「桃花流水」である。掲出の当館所蔵本は完本でないのが惜しまれるが、本作は稀本と言うべく所蔵館は全国でも 4 件ほどしかない。本作は文政 4 年という時期においても、黄表紙風の絵題簽を持っている点が珍しく、貴重である。見かけからしても妙で、本筋の姿をしていないが、その意味で珍本らしい珍本と言える。

一筆庵可候は溪斎英泉のペンネームである。英泉は絵師・画工とはして名高いが、一般にはあまり知られていないにしても、作者としてもそれなりの活動をし、作品数もかなりある。といっても、やはり本職ではないため、杜撰の作が多い。作品としては、その画業と相俟って艶本にその名を残している。

あか

3 赤 ぼ し さ う し

3 巻 秋里籬島(生没未詳。文政末頃没か?)作 伊予屋佐右衛門板 文化 7 年刊(1810)

913. 56/AK2-1//H

本作は秋里籬島の読本である。籬島は、京都の人。名は舜福、字は湘夕、通称は仁左衛門。籬島はその号である。安永 9 年刊(1780)の『都名所図会』が大当たりとなり、以後、画工を伴って諸国をまわり、「名所図会」を数多くものし、その後の流行の先駆となった。また、『源平盛衰記図会』を寛政 12 年(1800)に刊行し、「名所図会」に類似した画風の挿絵を多く取り入れ、読本における「図会物」という分野を生み出した。その他にも俳書や辞書など 40 冊を超える著書がある多才な作家である。

本作は、上方読本が次第に江戸読本の影響を受けて衰退していく時期の作だが、所蔵館の少ない稀本と言ってよい。

江戸文藝文庫

1999 年、本学文学部教授、故・水野稔氏旧蔵書の一括購入を契機に創設された。江戸後期の読本・合巻・人情本・洒落本・黄表紙・滑稽本などからなり、山東京伝の『優曇華(うどんげ)物語』初版本(文化元年)などがよく知られている。以後この旧蔵書を核として、近世後期の小説類とその関連資料を収集範囲と定め、図書館で毎年予算を計上し、コレクションの拡充を図っている。

拡充の一つの柱が、元埼玉大学教授、故大久保忠国氏旧蔵「抱(ほう)谷(こく)文庫」の購入である。江戸時代の文藝および演劇関係の原本を多数蒐集していることで著名である。本学図書館では、役者評判記・番付・せりふ本などの演劇関係の資料、式亭三馬・山東京伝・山東京山・曲亭馬琴などの諸作その他を一括した草双紙類、狂言絵本類などジャンル毎にまとめて購入を続けている。

4 ギョーム・ビュデ「偶発的事物の蔑視について」 1528 年

Gulielmi BV dæi Parisiensis, De contemptu rerum fortuitarum libri tres : cum breui & erudita eorundem expositione — Vænundantur in Officina Ascensiana, [1528]

091.3/997//H

ルネサンス期フランスの代表的人文主義者の著作。本書は、同じくフランスの著名な人文主義印刷者であるジョス・バードの印刷。同時代パリの牛皮装。ビュデの著作は、従来から所蔵していたものに加え、2004 年の特別資料公募において数点のコレクション購入が採択され、現在 10 点ほど所蔵している。本書は、同じくフランスの著名な人文主義印刷者であるジョス・バードの印刷。

5 ウィリアム・モリス「世界の果ての泉」ケルムスコット版 1896 年

The well at the world's end / by William Morris — Kelmscott Press , 1896

091.3/998//H

ケルムスコットプレスとは 19 世紀末、産業革命後の英国において、機械化による大量生産と職人軽視の時代のなかで、詩人であり装飾工芸家、社会運動家であったウィリアム・モリス (1834-1896) が手仕事の重要性を強調し、美しい本、読みやすい本、楽しい本を刊行することを目的として、1891 年に創立した私家版印刷所（プライベート・プレス）である。本書は手漉き紙刷 350 部の一つで、ヴェラム原装。ジョーン・バーンズの挿絵 4 点が含まれる。ケルムスコットプレス発行の図書は過去に図書館基礎資料費で少しづつ購入したものが 10 点ほどあり。ギャラリーの図書の文化史展において、プライベートプレスの図書を毎年数点紹介している。本資料はその中でも稀少なものとなる。

6 セバスティアン・ブラント『阿呆船』 ラテン語版 1497 年ストラスブール

Sebastian Brant "Stultifera navis"

Stultifera Nauis / Sebastian Brant — Johann Grüninger , 1 June 1497

091.3/995//H

7 セバスティアン・ブラント『阿呆船』

Beinde ab Jacobo Lochero philomuso latinitate donata [et] demu[m] ad Jodoco Badio Ascensio vario carminu[m] genere no[n] sine eorundem familiari explanatione illustrata — Impressum p[er] Nicolau[m] Lamparter , anno [et] c. 1496 [i. e. 1506], die vero xxvj. mensis Augusti

091.3/996//H

15 世紀のドイツの作家セバスティアン・ブラントによって書かれた風刺文学作品。『阿呆船』（Das Narrenschiff）は 1494 年にバーゼルで刊行され、その後各言語に翻訳されて 16 世紀ヨーロッパにおける大ベストセラーとなった。第一章を飾るのは、愛書狂（ビブロマニア）というタイトルの挿画。本書のテーマはヨーロッパ文学、絵画、演劇、映画に大きな影響を与えた。

図書館既所蔵の「西洋初期刊本絵入零葉コレクション」には、1497 年バーゼル版、1570 年ロンドン版の図版数葉が存在する。また、1570 年の英訳第 2 版ロンドン版も所蔵している。

西洋書誌学、印刷史の分野、また版画史、図像学などでの研究成果が期待できる。

和貴重書

8 近代日本アート・カタログ・コレクション—ゆまに書房. 2001. 89 冊

706.9/172-*///H

明治初期から戦前まで、全国に散逸した美術展資料、カタログを集成。アート・カタログ（美術展資料）には作品目録・図版・関係論文・作品解説・年譜などが含まれており、美術研究には欠かせない資料である。しかし、アートカタログは、会期中に会場で販売され、書店などの通常の流通経路にのらないため、図書館・研究機関などでの所蔵が極めて少ないのが現状である。本資料は、関東大震災や第二次世界大戦の災禍により失われた美術作品や、海外に流出した日本の美術品を辿ることが出来るほか、新たに発掘された作品を固定する材料でもある。また、近代日本画壇が西洋文化の影響を受け、近代化されていく過程を探求することが出来る、もっとも基礎的な資料である。

9 東京地籍図. 一不二出版. 2010. 20 巻, 付録 CD7 枚, 別冊 1 冊

291.36/366//H

昭和6年～10年にかけて、内山模型製図社出版部が刊行した『東京市各区地籍図』及び『同地籍台帳』を復刻したもの。この時代の東京の土地所有状況を悉皆的に網羅した貴重な資料。明治大学が所在している東京関連地図の一種であり、すでに一部を中央図書館で所蔵している。

日本近代文学文庫

10 久米正雄（1891-1952）『木靴』昭和2（1927）年8月 改造社 函付 MB100/KU8-2//W

久米にとって昭和2年は、「安南の暁鐘」事件（久米の作品「安南の暁鐘」は盗作だという記事が新聞に載った）、芥川龍之介自殺など、非常に暗い年であった。『木靴』はその様の中刊行された最後の短編集で、収録作品は「剣舞」「天花」「一つの写真」「職務」「墮落を待つ」「舞子」「墓参」「山蔭の小百合」「馬券」「定評」「此方が詫びる」「清水二等卒と銃」「慈善鍋」「栈道」「万年大学生」「マギー」である。

11 泉鏡花（1873-1939）『照葉狂言』明治33（1900）年4月 春陽堂 華邨木版口絵

MB100/I21-29//W

芸能である「照葉狂言」は「てるはきょうげん」とも呼ばれるが、本作品は本文中の記述にある「てりは」と読むのが正しいだろう。明治29年11月14日より同年12月23日まで「読売新聞」に連載された。単行本の初出としては、明治33年4月27日に春陽堂から刊行された本資料である。鈴木華邨による折込口絵、1頁上には鈴木静然の印記がある。

小林秀穂元予科長の寄贈書（文学、哲学書 100 冊）をもとに、昭和 22 年(1947)に「小林文庫」として設置。日本文学の授業で薫り高い文学書初版本を学生に触れさせたいとの考えからであったと伝えられる。1991 年に故佐藤正彰元図書館長・文学部教授の旧蔵書を受け入れるにあたって現名に改称した。

コレクションは明治から昭和戦前期までの文学書の初版本を中心とし、最近では文学史上重要な作家の戦後の作品を加えている。また、本学関係者の作品およびその人となりを伝える自筆もの（署名本、草稿、書幅等）もコレクションとしている。

12 菊池寛（1888-1948）『有憂華』 昭和 6(1931)年 4 月 新潮社
函付 装幀古賀春江、口絵寺本忠雄 MB100/KI2-20//W

菊池寛は作家であるだけでなく、出版社と映画会社の社長を兼務するなど、幅広いメディア界で存在感を示した人物である。菊池寛の作品は数多く映画化されているが、本作品もその一つで、松竹蒲田製作、清水宏監督で昭和 6 年 4 月 3 日に公開された。作品の初出は昭和 5 年 10 月 24 日から翌年 4 月 14 日まで、「報知新聞」に発表された。本単行書には「兄妹」「綾子」「心を弄ぶ」「有憂華」の 4 枚の口絵がある。

13 大佛次郎（1897-1973）『ふらんす人形』 昭和 7(1932)年 10 月 新潮社 帯・函付 装画・口絵小柴錦侍 題字管虎雄
MB100/ OS2-10//W

大佛次郎の作品として有名なのは、30 年以上も連載が続いた『鞍馬天狗』であるが、大佛は時代小説以外にも、現代小説、ノンフィクションなど、数多くの作品を残している。本作品は「報知新聞」に連載された現代小説の一つで、新聞小説でありながら「書きたいものを書く」という大佛のスタイルが見える。

14 江戸川乱歩（1894-1965）『蜘蛛男』 昭和 5（1930）年 10 月 大日本雄辯會講談社 装丁、口絵、挿絵：田中比左良 函付き
MB100/ED1-3//W

主に推理小説を得意とした江戸川乱歩が、かねてより執筆依頼の絶えなかった大衆文学雑誌の「講談倶楽部」に 1929 年 8 月から 1930 年 6 月まで連載し、大好評を博した作品である。自身の趣向の一つである「エロ・グロ・猟奇・残虐趣味」を前面に押し出したスリルやサスペンスがメインの通俗長編の代表作。当初、乱歩本人は、探偵小説の本道ともいうべき「本格派」を志向していたがここに至り、ついに本格という道を追及することに見切りをつけ、より通俗的な作風に転換することとなった作品でもある。

15 堀口大學（1892-1981）『夕の虹』 昭 32(1957)年 昭森社 230 部限定 小林ドンゲ銅板画 6 葉(内 4 葉に作者のサインあり) 総白皮装、布製たとう・函入り 用紙は福井産特漉紙

MB100/H05-27//W

堀口大學は、作詩、作歌にとどまらず、評論、エッセイ、随筆、研究、翻訳と多方面に業績を残し、生涯に刊行された著書は 300 点を超えるという幅広い分野で活躍した人物である。その中で詩人としての代表作がこの『夕の虹』である。1959 年には、この作品で第 10 回読売文学賞（詩歌・

俳句賞)を受賞しており、日本の近代詩に多大な影響を与えた。本書は限定 230 部で発行されたもので、特製 1～25 の内の 21 番である。著者の自筆のペン署名が残されている。

16 石垣りん(1920-2004)『私の前にある鍋とお釜と燃える火と : 詩集』 昭和 34(1959)年 書肆ユリイカ カバー有り 年賀状二通付き MB100/IS14-1//W

石垣りんは 1920 年に東京・赤坂に生まれた。小学生の頃から詩を書き始め、少女雑誌に投稿した。赤坂高等小学校卒業後、1934 年に日本興業銀行に事務見習いとして就職。1975 年の定年まで勤めた。在職中は組合運動に携わる。分かりやすくやさしい言葉で、社会や働く女性の生き方を表現した作品を発表した。第 1 詩集の『私の前にある鍋とお釜と燃える火と : 詩集』は椎間板ヘルニアの快気祝いとして刊行された。

当館所蔵本は、カバー角に僅かな痛みをみるが、全体的には良好な状態である。可愛いイラストの年賀状二通あり。2004 年、東京・杉並区の病院で死去した。

17 三島由紀夫(1925-1970)『黒蜥蜴 : 戯曲』 昭和 45(1970)年 牧羊舎 サイン入り 限定 50 部 函入り MB100/MI27-13//W

三島由紀夫は小説以外にも数多くの戯曲を書いた。「黒蜥蜴」は江戸川乱歩の原作小説を翻案し戯曲化したもの。「少年時代に読んで、かなり強烈な印象を与へられた」と言っている。稀代の女賊「黒蜥蜴」と名探偵明智小五郎が、ダイヤモンド“エジプトの星”をめぐる攻防戦を展開、女賊と探偵の恋愛を主軸とした。初演は昭和 37 年、産経ホールにて水谷八重子、芥川比呂志らが出演。その後、何度も上演され、映画化もされた。

当館所蔵本は、紫色の表紙で限定 50 部の著者本。スウェードと蜥蜴の革による装幀。本文に蜥蜴のレリーフの空押しあり。活字は紫色。

18 太宰治(1909-1948)『愛と美について』 昭 14(1939)年 5 月 竹村書房 255 頁 初函 MB100/DA1-8//W

昭和 12 年から 13 年に執筆された 5 作品から成る書下し短編集である。「火の鳥」に関しては、未完のまま収録されている。表題にも選ばれた「愛と美について」について、のちに太宰は「最も軽薄で、しかも一ぱん作者に愛されてゐる作品」と述べており(「ろまん灯籠」)、フィクションであるが、実際の兄たちをモデルにしていることも窺える。また、序文の「讀書に」という一文は初版にのみ掲載されている。

19 内田百閒(1889-1971)『凸凹道』 昭 10(1935)年 10 月 三笠書房 351 頁 内藤吐天宛毛筆署名入 初函 MB100/UC1-9//W

『鶴』に続く第 5 冊目の文集。三笠書房より普通版と特装版(限定 500 部)が発売されており、本書は普通版。遊び紙には「内藤吐天様 百閒」と著者直筆署名が入っている。40 編の短編と 8 編の雑俎の構成である。文芸評論家の勝本清一郎は、本文集を形式、内容共に「二刀流」であり、さまざまな 2 つものものが対立していることが、内田作品の面白さ、狙い所であると東京朝日新聞で述べている。

**20 小林秀雄（1902-1983）『信ずることと知ること』 昭和 53(1978)年 3 月 槐書房
17.5×12.5cm 70 頁 一万五千元 総白革装 天金 夫婦函・外函・輸送函
ペンサイン 限定 205 部、内著者本は 26 部、記番付きは 179 部 架蔵本は記番付きの
内 172 番 MB100/K01-20//W**

『信ずることと知ること』は昭和 49 年 8 月「國民文化研究會」の九州霧島講演に基づく。このほか『新年雑談』（「波」昭和 49 年新年号初出）も収録。

『信ずることと知ること』は、前半にフランスの哲学者ベルグソン（Henri-Louis Bergson : 1859-1941）について、後半は民俗学者柳田國男（1875-1962）について言及している。

理性的な人間は、科学的なもののみを思考の対象としており、一般的に経験される科学的ではないものをどう扱うのか。学者をはじめとする今日の知識人は「超能力」のような超自然現象に対して、「正しいか、正しくないか」という単純な判断基準だけで扱い、具体的な体験を抽象化、合理化してしまうと小林秀雄は述べている。

また体験を体験として自然と受け入れる柳田國男の態度に対し小林秀雄は素直に感動している。その感動は、柳田國男の類まれな感受性、具体的な経験への尊重の態度、そしてそこから自然に導かれる魂への態度までへと続く。

**21 江戸川乱歩（1894-1965）『心理試験』 創作探偵小説集第一巻 大正 14(1925)年 7 月
春陽堂 四六判 311 頁 貳圓 函入 序：小酒井不木 奥付著者名：平井太郎
MB100/ED1-2//W**

筆名の「江戸川乱歩」は、彼が敬愛し「推理小説の始祖」と呼ばれる「エドガー・アラン・ポー（Edgar Allan Poe : 1809-1849）」にもとづいている。江戸川乱歩の推理小説家としてのデビュー作は、大正 12 年「新青年」に発表した『二銭銅貨』である。この小説は暗号を中核とした巧妙なトリックを用いたものであった。これに対し、大正 14 年に発表した『心理試験』は、緻密な完全犯罪計画を精神分析の手法で犯人を看破するものであった。ふたつの小説はともに海外作品の翻訳ではなく、欧米の影響を強く受けてはいるものの独創性に富み、我が国における本格的な創作推理小説の始まりとして大いに注目された。

江戸川乱歩の処女出版である『心理試験』には、デビュー作である『二銭銅貨』、明智探偵を初めて登場させた『D坂の殺人事件』、創作小説にもかかわらず海外作品の翻訳と疑われた『一枚の切符』をはじめ、江戸川乱歩の初期の代表作を中心に計 11 篇の短編小説が収録されている。序文を書いた小酒井不木は、無名だった江戸川乱歩を世に送り出し、「本邦初の探偵作家」として絶賛した。

22 ニコラス・ウィッツェン 『北東タターリア誌』 アムステルダム
1785 年 2 巻 AS110/58//H

“Witsen, Nicolaas, 1641-1717 ”

Noord en oost Tartaryen : behelzende eene beschryving van
verscheidene

“Tartarsche en nabuurige gewesten、 in de noorder en oostelykste
deelen van”

“Azien en Europa. Nieuwe uitgaaf、 verrykt met eene inleiding tot
het werk.”

“Amsterdam : M. Schalekamp 、 1785.”

東北アジア、シベリアの地理・地誌資料集成。初版はアムステルダム
で 1692 年に刊行。清の康熙帝に仕えたイエズス会宣教師フェルベースト
(南懷仁、Ferdinand Verbiest) の『韃靼旅行記』、オランダ人航海者
フリース (M. G. Vries) の蝦夷・サハリン沿岸航海 (1643 年) の記録等
を含み、当時のヨーロッパにおいて、東北アジア、シベリアに関する貴
重な情報源となる。その後 1705 年に第二版が刊行。展示の資料は、1785
年の改訂版。なお馬場佐十郎『東北韃靼諸国図誌野作雑記訳説』は本書
の抄訳である。(参考展示参照)

23 小野寺謙 『蝦夷海陸路程全圖』 江戸 : 播磨屋勝五郎、安政
2 年 (1855) AS10/67//H

江戸時代、蝦夷地図の刊行はそれほど多くなかったが、幕末に至り急に
増加する。本図もその一つ。図は松浦武四郎の『三航蝦夷全図』(嘉永 7
年 (1854)) を元になっている。作者小野寺謙 (1810-1866) は仙台藩士、
嘉永 6 年に藩命により蝦夷地を視察し、その紀行も残している。

【参考展示】ニコラス・ウィッツェン、馬場佐十郎(貞由)補訳 『東
北韃靼諸国図誌野作(エゾ)雑記訳説』 2 冊 文化 6 年 (1809) 成立
291.1/18//H

『北東タターリア誌』1785 年改訂版のうち、当時江戸幕府が強く注
目していた蝦夷地、カラフトに関する部分の抄訳。本書におけるカラ
フトの地形に関する考察は、高橋景保の「日本境界略図」など日本北
辺地理の理解に大きく貢献するものであった。補訳者馬場佐十郎
(1787-1822) は長崎生まれのオランダ通詞、オランダ語、フランス語、
英語、ロシア語等を学び、語学の才能を高く評価された。日本に抑留
されたロシア人艦長ゴローニンにロシア語を学び、村上貞助らとともに、
日本におけるロシア語学の先駆者といわれる。

蘆田文庫

歴史地理学者として高名

あしだこれと
な蘆田伊人が生涯をかけ
て収集した約 2000 点の古
地図のコレクションを

1957 年に購入。内容は、
世界図、北方図、日本図、
地方図、町図、街道図、水
路図、俯瞰図など幅広い分
野に渡っている。日本図で
は、江戸初期の行基図や国
絵図、元禄期の石川流宣

『本朝図鑑綱目』、江戸中
期に民間図の主流をなし
た安永 8 年 (1779) 版の長
久保赤水『日本輿地路程全
図』、伊能図、明治期の地
形図などが系統的に集め
られており、日本地図成立
史を知る上でも有用なコ
レクションと言える。ま
た、地方図には、当該地域
において既に失われてし
まった貴重なものが含ま
れている。世界図では、大
黒屋光太夫将来の両半球
図写図や、リッチ系の楕円
形図などが所蔵されてい
る。

**第 52 回 明治大学中央図書館企画展示
新収貴重書展**

編集：中央図書館ギャラリー企画運営ワーキンググループ(WG)

(伊能秀明、鈴木秀子、宮澤順子、吉田千草、梅田順一、仲山加奈子、永田由香利、曾野正士)

解題執筆協力：展示番号 1-3[江戸文藝文庫] 内村和至(文学部教授)

展示番号 10-21[日本近代文学文庫] 和泉図書館事務室

展示番号 22-23[蘆田文庫] 菊池亮一(図書館総務事務長)

発行：明治大学図書館

発行日：2014 年 3 月 26 日